

ピアホームだより

2021. 4.10

令和3年新年度に向けて

—アドボケイト会事業計画から—

これまでの歩み

当会は、2003年4月地域の家族会(はすね会)の支援を受け、志村坂上に無認可作業所として産声をあげました。そして、2003年10月、都より認可を受け、新高島平に精神障害者共同作業所としてスタートを切りました。

2006年10月特定非営利活動法人アドボケイト会となり事業基盤を整え、2011年7月、リトルハウスは障害者自立支援法の就労継続B型事業所に移行し、その後順調な運営を行って来ました。2014年4月には高島平9丁目へ本部・リトルハウスの移転を行い、現在に至っています。

2009年5月に開設した共同生活援助事業(ピアホーム)も2015年4月から1室

増やして全9室となり堅実な運営ができています。この間、地域の受け入れが難しい障害者の取り組みを強め、実績を積み重ねて関係機関からも評価を得て来ました。

東京は、住居費が異常に高いという現状の中で、精神障がい者がグループホームを卒業した後の不安を日々聞くことになりました。ピアホームⅡの老朽化の問題もあり、建て替えを行い、少しでも多くのお部屋を提供して行けるよう立案をして行きます。

1 施設間・専門家との連携を進める

平成30年度から、顧問医白石先生の「家族と専門家の交流会」の事務局となり、バックアップを担当して来ました。

「交流会」を通じ専門家との交流を深める中、埼玉県立大学看護学科との連携も出来ました。

また、武蔵野大学通信教育学部、社会福祉専攻の実習受入れ施設にも認定され、本年度より社会福祉士養成施設としても機能しており、施設と大学との協力関係が作れています。

平成24年からはサービス等利用計画の作成が義務付けられ、特定相談事業所との連携が求められて来ました。当所は積極的に取り組み、組織を越えた信頼関係を築き連携を強めて来れたと思います。

そうした積み重ねでピアホームの希望者が増えてきていますし、リトルハウス利用者の増加も著しく、関係機関との連携の実を結んで来ていることを実感しています。

2 事業継承と新しい運営体制

事業立ち上げから20年、立ち上げ時に関わって頂いた支援の方々も高齢となり、理事役員の若返りを計り、交代して行かなくてはならない時期に至りました。

今年度は、理事選出の年であり複数の役員の交替を考えています。将来の理事長を見据え新しい副理事長の選出も必要です。

また、アドボケイト会の運営体制も一新し、今後、リトルハウスは千田豊子から鈴木星男にバトンタッチして行きます。

4月の予定

4月3日:お花見会